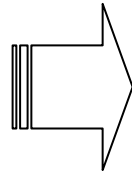


ゆめと活力のある“いきいきとした商店街”をめざす提案書概要版

「篠山市商店街いきいき委員会」の7回の会議を行い、浮き彫りになってきたこと

提言

1. 商店街は地域のまちづくりの中心的役割を担っている。
2. 商店街の課題は「誰がするか」と「具体的な取り組み」である。
3. 商店街がめざすのは原点である篠山らしい「いきいきとした商店街」への回帰である。
4. 委員会で事業実施に向けた意識の醸成が図れた。
5. まずは「拠点」「人材」「資金」の集約から始めてみるのが大切である。



以上のことから

“いきいきとした商店街への原点回帰をめざす”

必要な『拠点』と『人材』と『資金』を集約することから始める

本商店街いきいき委員会の
有志（商業者中心）で
発起人会を結成。

人材育成

拠点確保

資金調達

実行性のある事業展開のために、
商店街内の空き店舗等を活用した
活動拠点を確保する。

「専門ファンド」の導入

スタート事業として

『(仮称) **くるくる商店街“つーながリズム”**』

～ ご用聞き あなたの自家 まるごとサポート事業 』を提案する。

本事業は、商店街加盟会員店の協力を得ることが前提。

事業テーマ：商店街活動の拠点づくりと旧来顧客の再発掘および新規顧客の獲得

事業概要：市内各地に存在する買物弱者への日常生活支援として

ア) 宅配サービスによる販売の実施。

イ) 自宅からの送迎サービスによる商店買回りへの支援。

ウ) (空き店舗を活用した) 商店街コンビニエンスショップ (コミュニティ施設兼用) での買物・交流・交歓の場の創設。

エ) その他、地域情報発信の拠点としての活用。

●商店街活性化に向けた空き店舗活用

- ・目標：関係者組織によるサブリース（転嫁を目的とした一括借上げ）を実施する。
- ・「ランドオーナー会社（家主や管理者など空き店舗の関係者からなるまちづくり会社）」の設立をめざす。
- ・有力オーナーの結集と会社組織づくりが鍵。
また、各商店街運営に結び付いたタウンマネジメントも必要である。
- ・資金調達には、「専門ファンド」の導入を考えている。
- ・さらに、外部協力者（店舗関連不動産事業者・店舗設計者・経営指導員等）も必要となるため、その組織化を行う。